

記 入 日 2012年1月9日

1. 概 要

実践団体名	新潟市立新潟小学校		
連絡先	※代表者または担当者の連絡先電話番号		
プランタイトル	マイ防災マップで守ろう わたしたちの命		
プランの対象者※1	小学校（低学年） 小学校（高学年）	対象とする 災害種別※2	地震 津波 災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

- ・東日本大震災の様子を、実際に体験した方の話を聞くなどして問題意識を高め、自分の命を守るための行動について進んで考えることができる。
- ・登下校中や地域で、想定外の事態（災害）が起こったときの対応を考えることで、行動マニュアルの臨機応変な活用を身に付け、マイ防災マップを作成することができる。

【プランの概要】

本プランは、児童の災害に対する意識を高めることからスタートする。そのために、東日本大震災で実際に児童への避難指示や避難所運営を行った仙台市の小学校長から地震や津波の被害の様子やそこで得た教訓を話してもらう。災害から身を守るためには、常日ごろの備えはもちろん、学校や地域の連携や様々な状況に臨機応変に対応する能力の大切さを学ぶ。

全校では、地域や関係機関と連携し、地震による津波や火災を想定した避難訓練、交通安全教室等を実施し、地域ぐるみの防災教育を行う。

4学年では総合学習の単元として防災教育を取り入れ、地域や登下校中において、想定外の事態に対応した避難の仕方やマイ防災マップ作りを行い、さらに意識や行動力を高めていく。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・地域住民と一緒に、実際に東日本大震災を体験した方から話を聞いたり、映像を見たりすることで、防災への意識を高めることや学校と地域の常日頃からの連携の大切さに気付くことができる。
- ・自分たちの地域における過去の災害から、今後想定される災害について考え、地域の実態に応じた防災教育を推進することができる。また、自分の住む地域の特性を考え、オリジナルな防災マップを作ることで、災害時の想定力や行動力を身に付けることができる。

2. プランの年間活動記録 (2012 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	防災教育チャレンジプランの作成	仙台市訪問 講演依頼	
5 月	学校地域合同避難訓練 の実施計画作成・提案		1 4 日 (月) 火災を想定した避難訓練 仙台市岡田小学校長のメッセージ 放映 (ビデオ)
6 月	全登下校スクラム大作 戦の実施計画作成・提 案	学校地域安全推進協議会 で合同避難訓練の準備計 画・役割分担作成	5 日 (火) 学校地域安全推進協議会(1) 1 6 日 (土) 学校地域合同避難訓練 (津波を想定した避難訓練) 仙台市東六番町小学校長講演
7 月		交通安全推進協議会や警 察等との事業実施におけ る調整	3 日 (火) 安全登下校スクラム大作戦 地域関係機関と連携した交通安全 教室実施 1 1 日 (水) 警察と連携した不審者対応避難訓練
8 月		防災マニュアルの見直し	
9 月	中間発表会資料作 成	中間発表会準備	1 4 日 (金) 隣接中学校と連携した避難訓練
10 月	4 年生総合学習 (防災教育) の計 画作成	授業準備 (4 年)	1 1 日 (木) 学校地域安全推進協議会(2) 1 3 日 (土) 1 4 日 (日) 中間発表会参加
11 月			4 年生総合学習 (防災教育) 「マイ防災マップ」を作ろう 開始
12 月			1 9 日 (水) 大雪を想定した避難訓練 1 8 日 (火) 玉川大学寺本先生来校 防災マップ作り指導
1 月	活動報告会資料作 成	活動報告会準備	4 年生「マイ防災マップ」完成
2 月			9 日 (土) 活動報告会参加
3 月			

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：1】※3

タイトル	学校地域合同避難訓練
実施月日（曜日）	6月16日（土）
実施場所	新潟市立新潟小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：塚本 剛 栗田 貫 所属・役職等：教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	3 ・ 16
活動目的※5	4 ・ 8
達成目標	防災に対する意識を高め、津波に対応した安全な避難ができる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台市東六番町小学校長による講演会 ・ 地震による津波を想定した避難訓練 ・ 児童の引き渡し訓練
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師 仙台市立東六番町小学校 校長 渡辺 力 様
参加人数	950名（児童・保護者・地域住民）
経費の総額・内訳概要	50,000円（講師交通費・謝礼・宿泊費）
成果と課題	<p>【成果】 地域住民と一緒に講演を聞いたり避難訓練を行ったりすることで、防災への意識を高めることができた。</p> <p>【課題】 講演会の対象が、児童から地域住民までと幅広かったことから、講師に迷惑をかけた。（低学年を対象にした話を中心にしていただいた。）</p>
成果物	新聞記事

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：2】※3

タイトル	安全通学路スクラム大作戦
実施月日（曜日）	7月3日（火）
実施場所	新潟小学校・体育館・周辺道路
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：栗田 貴 所属・役職等：教諭 生徒指導部
所要時間または 「コマ数×単位時間」	4時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	2 1 3 1 6
活動目的※5	7 8
達成目標	・地域・関係機関と連携して、登下校の安全や、安全な自転車の乗り方、横断歩道の渡り方等を指導し、交通安全の意識を高める。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1 地域・関係機関と連携した「交通安全教室」「自転車教室」を実施する。（1年生・3年生） 2 登下校の際に、教職員が危険場所を点検する。 3 関係機関や保護者ボランティアが、登下校時に、通学路の交通量の多い道路や交差点に立つ。 4 学校と家庭で児童自身の安全意識を高める指導を行う。（学級指導） 5 警察と連携し、ドライバーに安全運転を呼びかけるビラを配布する。（6年生）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・新潟中央警察署 署員 （交通安全教室指導・ビラ配付指導） ・新潟市中央区役所安心安全係 職員 （自転車教室指導） ・新潟校区交通安全推進協議会 役員 （交通安全教室補助） ・民生児童委員 （登下校時の安全指導） ・保護者ボランティア ・セーフティースタッフ
参加人数	全校児童547名
経費の総額・内訳概要	20,000円（用紙・インクトナー代）
成果と課題	【成果】 様々な関係団体が、児童の交通安全を共通の目的として一つになり、事業を推進する中で、 【課題】 学校主体で事業を企画し、様々な団体へ声をかけて事業を推進した。今年度の実践をもとに、今後も継続して取り組むことが大切である。
成果物	新聞記事

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：3】※3

タイトル	4年総合「新潟の町で安全に暮らすために（安全マップづくり）」
実施月日（曜日）	11月中旬～1月初め
実施場所	新潟小学校4年
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏名：塚本 剛 所属・役職等：教諭 学校防護主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	全11時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	4
活動目的※5	4・6・8・9
達成目標	地震発生時の避難について、時と場に応じて自ら適切に判断するとともに、地域の実態に応じた防災マップをつくることことができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設の見学を行い、過去の地震の被害や、新潟の町の成り立ちや避難方法などを知る。 2 地震が発生したことを仮想し、最善の避難方法を考えるための必要な情報を得たり、「場所」、「時間」、「人」といった複数の具体的な条件から避難方法を考えたりしながら、最善の避難方法を選択する。 3 学習したことをもとに、地域の防災マップをつくる。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学「みなとぴあ」「きおく未来館」 ・防災マップ指導 玉川大学「寺本潔」様 ・大型マップ、一人一人へ配付した地域のマップ
参加人数	4年生81名
経費の総額・内訳概要	50,000円（大型防災マップパネル・個人マップ 印刷 用紙代 等）
成果と課題	<p>【成果】 「日時」「場所」「周囲の人間」など、状況や場面に応じた避難行動や、地域の実態を考慮した避難行動をを考えることができた。</p> <p>【課題】 防災マップをさらに充実させ、多くの人の目にふれるようにすること。</p>
成果物	児童が作った「マイ安全マップ」

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような手順で、どのような安全マップを作ったらよいか。 <p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・関係機関との連携した取り組みになるように配慮した。 ・想定外の事態に対し、児童が主体的に考えをもつことができるようにすることや、地域の実態に応じた安全マップを作成すること。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市の校長先生の講演依頼と交渉、打合せ <p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、関係機関の代表と、「学校地域合同避難訓練」を計画の段階から話し合うことで、お互い参画意識をもつことができたこと。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校地域合同避難訓練」の運営で、全体を掌握し、指示を出していくことが難しかった。 <p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全マップ作りに関して、専門家の指導を受けることができたこと

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	新潟市立寄居中学校	避難訓練
保護者・ PTAの組織	保護者 保護者ボランティア	学校地域合同避難訓練 への参加 通学路安全の見守り 交通安全教室の見守り
地域組織	新潟校区交通安全推進協議会 民生児童委員 新潟校区コミュニティ協議会防災部 礎コミュニティ協議会防災部 寄居地区消防団	安全通学路スクラム作戦 安全通学路スクラム作戦 学校地域合同避難訓練 学校地域合同避難訓練 学校地域合同避難訓練
国・地方公共団体・ 公共施設	新潟市中央区役所総務課安心安全係 新潟中央警察署交通安全係 新潟中央消防署	安全通学路スクラム作戦 (自転車教室指導) 安全通学路スクラム作戦 (交通安全教室指導) 避難訓練
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地域の団体や警察，消防署，行政などの関係団体と連携して防災教育を推進してきたことで，より連携が深まり，いざという時の動きの共通理解が図られた。 ・児童だけでなく，保護者，地域の方々と一緒に講演を聞いたり，避難訓練を行ったりする中で，日頃からの学校と地域の連携や備えの大切さを学ぶことができた。 ・自分の住む地域や登下校中に災害に遭うなど，想定外の事態に対してどのような行動をとったらよいかを考える学習過程を通して，様々な状況を考慮しながら最善の方法で自分の命を守る想定力や行動力を身につけることができた。また，自分の住む地域の防災マップを作成する中で，自分の住む地域の様子を振り返り，地域の実態に応じた避難方法を考えることができた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の取り組みを通して，学校だけでは児童を災害から守ることは難しいということを改めて感じた。日頃から地域の方々から児童の安全を見守っていただいたり，いざという時は，地域，関係機関と一体となって，行動したりすることが多くの命を守り，お互い助け合うことができる。そのためには，日頃から，学校・地域の防災について話し合ったり，多くの人と顔なじみの関係を築いたりしていく必要がある。 ・今回は，学校主体の取組となったが，今後は，今回立ち上げた学校地域安全推進協議会を中心に，関係団体からも主体的に学校と地域を中核にした防災事業を推進していくことができるように働きかけていきたい。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した取組は次年度も継続して取り組んでいく予定である。次年度は，地域の青少年育成団体や，父親が組織する「おやじの会」とも連携し，「防災キャンプ」にも取り組んでいきたい。



7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

マスコミ取材

(1) 学校地域合同避難訓練 (6 / 16) 読売新聞 毎日新聞 新潟日報 他テレビ局 (2局)

地域と学校 共同で訓練 新潟小



1964年に発生した新潟地震から48年となった16日、新潟市中央区の市立新潟小学校で、地震による津波を想定した訓練が行われ、児童や保護者らが緊急時の避難方法を確認した。この日は、児童534人と保護者に加えて、地域住民約40人も参加。同小と地

域住民が一体となった訓練は今回が初めて。児童らは、東日本大震災

で約1800人を受け入れて避難所を運営した仙台市立東六番丁小学校の渡部力校長(59)による講演を聴き、津波の恐ろしさや地域と協力した防災活動の重要性を学んだ。

その後、教室に戻った児童たちは、地震が発生したという校内放送を聞いて、一斉に机の下に潜り、写真Ⅱ、列になって4階の多目的ホールに避難。保護者への引き渡しの練習も行われた。

新潟小の高橋雄一校長(59)は、小学生時代に自らも新潟地震を経験しており、「学校だけでなく、地域一体で防災計画を考える必要がある」と強調した。

(2) 安心通学路スクラム作戦 (7 / 3) 新潟日報 他テレビ局 (2局)

新潟・中央区

安全運転守ってね

全国で登下校中の児童が交通事故に巻き込まれる事案が続発していることを受け、新潟小学校の6年生約80人が3日、学校前の通学路でドライバーに安全運転を呼びかけるチラシを配った。写真Ⅱ。

児童たちは「飲酒運転をしない」「とびだし注意」などと書かれた手作りのチラシを用意。新潟中央署員の協力を得て、信号待ちをしている乗用車に近寄り、「交通安全に気をつけてください」と呼びかけた。チラシを受け取ったドライバーや同乗者は「気をつけますね」「ありがとう」と笑顔で応じていた。

竹林美美さん(11)は「チラシを見て、安全運転を心掛けるきっかけになればうれしい」と充実した表情だった。



(3) 不審者を想定した避難訓練 (7 / 11) テレビ局 (2局)

(自由記述: 1 / 3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)